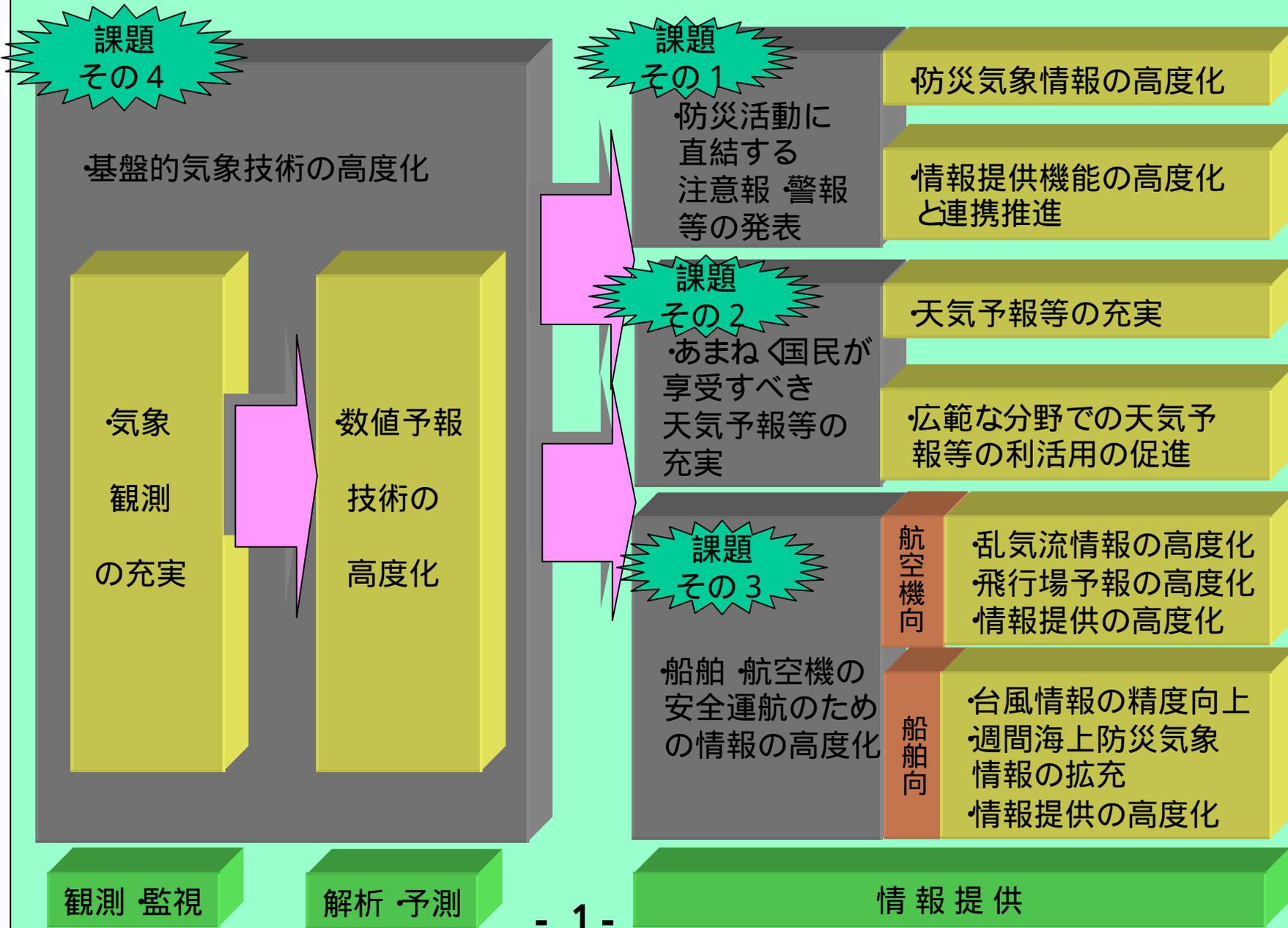


2010年までに実現を目指す予報業務の高度化



課題その1

防災活動に直結する注意報・警報等の発表

必要とされる
防災気象情報

①防災気象情報の高度化

防災対応で必要とされる「いつ」、「どこで」、「何が」、「どの程度」を具体的に示した防災気象情報の適時・的確な発表

- ・防災機関における対応の推移を踏まえた情報に
- ・各機関の防災目的と担当範囲を踏まえた情報に

いつ？

いつから警戒すべきか
時間的に詳細な予測

どこ？

私のところはどうなのか？
空間的に詳細な予測

何が？

何が起きるのか？
気象災害発生ポテンシャルの
提示

程度？

どうすればよいのか？
体制規模等を判断するた
めの過去事例との比較等

浸水

土砂
災害

洪水

歴代1位

10年
に1回

△△台風と
同程度

②情報提供機能の高度化と連携推進

画像を主体としたわかりやすい情報の迅速・確実な伝達を行うため、情報通信技術・サービスの進展等にあわせて、情報提供機能の高度化と関係機関との連携推進

防災関係機関からの防災気象情報に対する要望

情報内容に関する要望

より詳細な予測情報を

- ・市町村毎の細分発表、地域の限定
- ・現象の始めと終わりの明示
- ・現象の詳細で量的な予測
- ・降水短時間予報の延長
- ・数日先の情報での量的予想、確率表示
- ・予報気象要素の充実
- ・災害対策に結びつく情報
- ・注 警報の空振りを減らすこと

わかりやすい情報提供を

- ・図形式による情報の提供
- ・強調する部分を簡潔・明確に
- ・情報内容を時系列の図表現で

運用に関する要望

適切なタイミングで発表を

- ・防災機関における対応を踏まえた情報提供（頻度、タイミング）
- ・見通しや変動の大きい時など、適切なタイミングで発表
- ・数日先の情報を24時間間隔よりも短く
- ・現象が概ね終わった時に速やかに警報を解除

事前に情報提供を

- ・注意報・警報の発表・解除の可能性の事前情報
- ・夜間の現象に対して毎日定時に情報を発表

防災気象情報の高度化

《現行》

現象(災害)の広がりや警報発表域に大きな隔たり

福岡地方、北九州地方に大雨警報

局地現象の予測精度が利用者の要望に達せず

昼過ぎにかけて所により

警報が出ても災害の程度が不明確

山崖崩れなどに厳重に警戒して下さい

4/21 7/21
290650

8210 03 04 14
8220 03 04 14
8230 10 14 18

文章形式:
内容解説に要時間

平成〇〇年 〇月29日06時50分 福岡管区気象台発表
福岡地方「大雨、洪水警報」雷注意報」
北九州地方「大雨、洪水警報」雷注意報」
筑豊地方「大雨、雷、洪水注意報」
(福岡地方、北九州地方では、昼過ぎにかけて、1時間に50ミリ以上の激しい雨の降るおそれ)
梅雨前線が九州北部地方に停滞し、活動が活発になっている。
福岡地方、北九州地方では、昼過ぎにかけて所により激しい雨の降るおそれ。予想雨量は1時間雨量50ミリ以上。明日朝にかけての総雨量多い所150ミリ。
筑豊地方では夕方まで、所により雷を伴い強い雨の降るおそれ。予想雨量は1時間雨量30ミリ以上。
これまでに降った大雨により地盤が緩んでおり、山・崖崩れの起こる危険性が高い。また、河川の増水や氾濫、低い土地の浸水などの重大な災害の起こるおそれがありますので、厳重に警戒して下さい。落雷、突風などの災害に十分注意して下さい。

領域の絞込み

短時間予測拡充

発災関係の指数化

運用面改善

《2010年における目標》

対象域をより明確に

大雨警報: 芦屋町、岡崎町、玄海町、宗像市、...

時間を特定、量的に

C市は1時間後から3時間程度50ミリを超える激しい雨

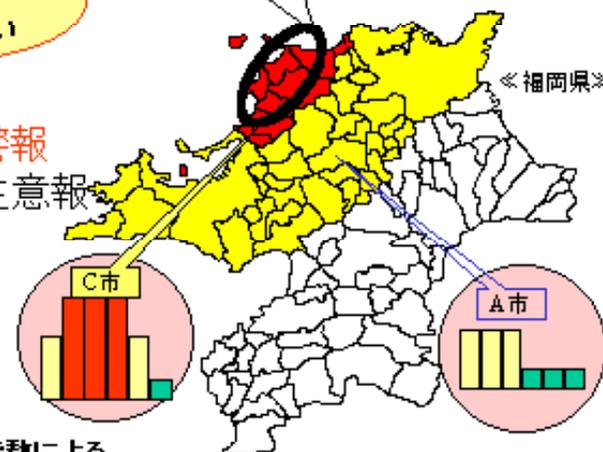
どの現象がどの程度か

土砂災害発生ポテンシャルは10年に一度の値

図形式:
わかりやすい

警報級の現象の発現域

赤: 大雨警報
黄: 大雨注意報
白: 無し

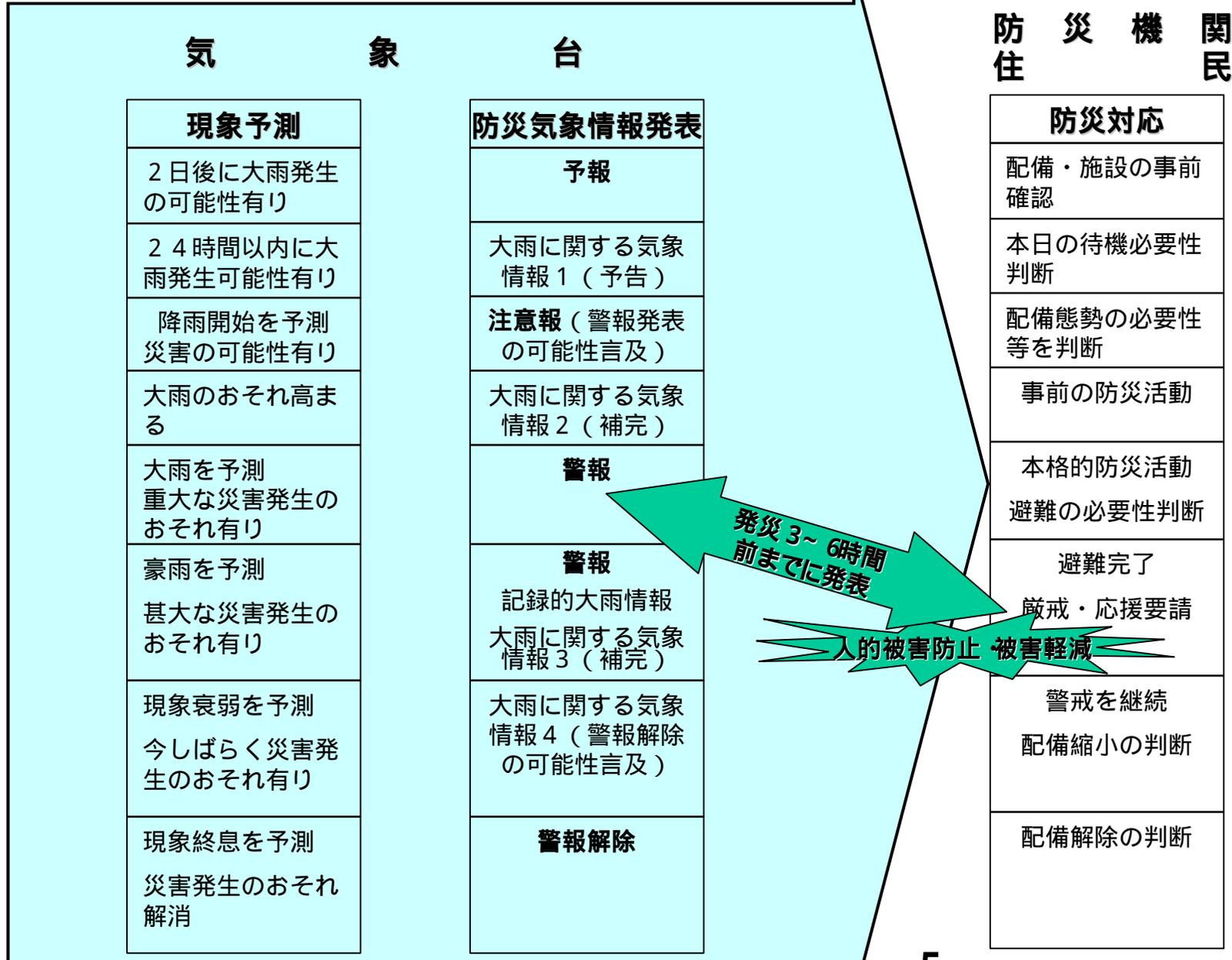


土壌雨量指数による
土砂災害発生ポテンシャル

時系列表示

C市は1時間後から3時間程度危険な状態が続く。
A市はこれから3時間注意を要する。

防災機関における対応の推移を踏まえた情報に

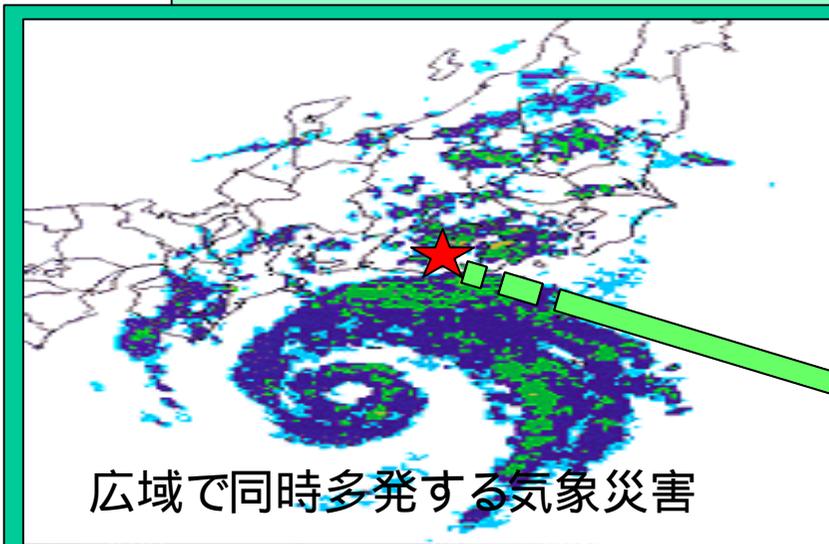


各機関の防災目的と担当範囲を踏まえた情報に

・着氷、着雪、なだれ等の注意報の気象情報への移行

・防災活動に直結する地面現象注意報・警報（土壌雨量指数の活用）、
浸水注意報・警報、水防活動用注意報・警報の運用

・災害対応を勘案した頻度（タイミング）での防災気象情報の発表



・国の危機管理体制・
広域的な応援に対応
した気象情報の発表

・対象地域を絞込んだ
防災気象情報の発表

・予測資料（ガイダンス）の詳細化・精度向上
・災害と気象の調査・研究の推進

・防災機関との観測データ・災害状況の
データ交換による連携の推進

情報提供機能の高度化と連携推進

